

2019年度しあわせ研究

都市における共生空間としての コミュニティガーデンの実践と提案

研究員 明石修、真名垣聡
後藤新、神吉宇一
住田優、足立恵介



本研究では、都市において、人が自然とふれあい、また多様な人が交流できる場としてのコミュニティガーデンづくりを行っています。主な活動場所は、武蔵野大学有明キャンパス3号館屋上と、東京都中央区晴海地区です。本報告では、今年度行った主な取り組みを紹介します。

①有明キャンパス屋上コミュニティガーデンづくりとイベント等の開催

2017年度より、有明キャンパス3号館のスペース（約30m×20m）に、菜園やベンチなどを配置したガーデンづくりを行っています。そこでは、多様ないのち（生き物）が共生し、循環する空間をつくるために、自然菜園（生物や自然の力を活かし、化学肥料や農薬を使わない農法による野菜の栽培）、雨水利用、廃木材を利用したモノづくりなどを行っています。また、2号館屋上ではみつばちの養蜂も行っています。今年度は、トマト、ナス、エダマメ、大根、白菜、ネギなどの栽培し、多くの収穫が得られました。また、それらの恵みを学内の方

と共有し、参加者どうしが交流することを目的として、今年度はイベントを3回開催しました。8月6日に開催した屋上ピザパーティーでは、参加者に、屋上菜園で収穫した野菜をつかったオリジナルピザを作ってもらい、手作りのピザ窯で焼いて食べていただきました。200人以上の学生、教職員の方に参加いただきました。

②地域住民との協働による菜園活動とコミュニティづくり（たべようはるみタワマンの森プロジェクト）

希薄になりがちな都市の中での地域住民の関係性づくりを目的として、東京都中央区晴海のタワマンマンションの自治会と協働しマンション敷地内に住民参加型のコミュニティ菜園をつくりました。そこでの活動を通じて地域コミュニティづくりを行いました。ワークショップなどのイベントを年に6回開催した結果、回を追うごとに住民同士の関係性が醸成され、今では日常で気に住民同士の交流が行われています。この活動は、雑誌BE-PAL2019年10月号（小学館）に掲載されました。

